

小中連携または支援校と小中学校の連携について提示が出来ればと思います。

まず学校種を問わず小中連携について学校種を問わず、といましたが特支学校の小中連携も含めた提示だからです。

私は6・3制の小中併設校に二回勤務しました。特に小規模校だったので利点を多く感じる事が出来ました。

小中併設校の利点については後で述べます。反面4・3・2制の義務教育学校にはいくつか課題が残ります。

その課題の一つがダブルスタンダードです。隣接する地域内に学校が6・3制と4・3・2制を混在する問題点は体験してきました。制度を混在させる制度の課題はこれ以上論じるまでもありません。

私は小学校と中学校の段差は現状では成長のために必要な部分があると思います。ただ段差を乗り越える支援は必要だと思えます。そのために必要な連携は会議をしたり一緒に研修をしたりする事ではないと思えます。

私は支援学校で小学部から持ち上がって中学部に進学した生徒たちを担当しました。

支援学校でも段差があり必要なものものと思えます。それは打ち合わせや研修をしたからOKというものではありません。困った時、参考にしたい時、小学校の時の環境や生育歴がわかり、適切な助言が出てくると言う部分です。その観点から最適な小中連携は小学校時に6年間担任した教員が隣にいる、という環境を何度か体験しました。

その時、数度の会議打ち合わせより、小学校時の助言者が隣にいる効果を実感しました。

小中連携

舟形町の特支学級では
小学校担任と緊密に連携



小中連携

必要なことは
会議や研修ではない



困ったときに生育歴、助言や予想等の
情報が偏らず良心的に渡される事

真摯に助け合えること

小中連携

特支学校では
小学校6年担任から 卒業入学を越え
中学校1年担任に持ち上がり



小中連携

角川小中学校では
小学校で社会科を担当
卒業入学後すぐに 同じ生徒達に



中学校でも社会科を担当する



自分が小学校からも持ち上がり担任だった時は、生徒にとっての環境の変化が理解でき、何に困っているか理解できました。中学校ではじめて特支学級を担任した生徒は家内が小学校でずっと担任していた生徒でした。

これは助かりました。

困ったときに、知りたいときに小学校の生育歴と課題、活動の予測がすぐ隣から出てくる。これが理想的だと感じました。おかげで随分良い授業の組立が出来ました。

角川小中学校の時も良い連携が出来ました。私は小学校で社会の授業にでていました。ずっと社会の授業をしていた6年生が中学に入学して、今度は中学生として私の社会科の授業を受ける。担任だった先生も一緒に職員室でした。信頼して気軽に相談ができました。この小学校で社会を教えた児童たちは文化祭で古事記の演劇をしました。その演劇の中には社会科教師として私の役もでていました。その生徒たちが中学生に進学してくるわけですから、事前準備十分でした。その話はまた別に提示したいです。

小中連携は効果が高いですが、それは打ち合わせや会議をすれば良いと言うものではないと感じています。

小中連携

沼ノ台小中学校 角川小中学校
に勤務経験
両校とも 小・中 両方の教壇に立つ



利点は少人数の相互理解と地域連携

制度の混在する課題は論じるまでない

小中連携

必要なことは
会議や研修ではない